

62. 5教科のテスト（中間・課題）を一日でやりきらないで欲しい。
63. 勉強していったい、社会の役に立つのですか？
64. 4教科は好き嫌い、出来る出来ないがあるので、選択性にすればよいと思う。あと先生を選びたい。
65. 週五日制になって、一日の授業の数が増え、部活をする時間や学校の行事がなくなってきたり、土曜日の弁当がなくなって、友達との時間が少なくなった。私は土曜日でも学校に行けると、かなり今より楽になれると思います。
66. 私のまわりでいじめがある。
67. 授業の数が減ったことで、授業の進み方が早くなったこと。
68. 部活動で代表になって、この先やっていけるかが不安。
69. 週五日制で、部活が少なくなった。行事で忙しい。（練習も少ししかする期間がなく、すぐ行事行事と続くこと）（特に今年の体育祭にはびっくり） 授業が多い。週五日制で、毎日しんどい。
70. 土曜が休みになって、五日間ずっと6時間授業になってしんどい。なんとなく、部活の時間が減った気がする。結局この制度を考えた人は、何にもわかつちやいない。こんな制度で勉強勉強勉強って言われてる中学生の負担は軽くはならん。とにかく、いらん、いらん、いらん。
71. 机に向かったら、気持ち悪くなる。寒くても汗が吹き出て、集中できない。耳鳴りがすごい。
72. 放課後、先生に勉強を教えてもらう時間があればいいと思う。夏、勉強が出来るように冷房をつけて欲しい。部活、夏休みの宿題が多くて、自分のやりたいことが出来ない。
73. テストの点が悪いのに対し、成績表はまあまあといった感じで、こんなんでも高校へいけるのか。それから、時間がないから、体育祭の内容もあまりおもしろくない、とかいろいろあります。
74. 第2と第4の土曜日が休みでよかった。週五日制になって、体育祭や文化祭の練習があまり出来ないこととかが悲しいです。後、土曜が休みでも、勉強をすることが少ないので、みんな、日本人アホになるかとも思いました。しかも、早く勉強（授業）が進んで、難しいときがある。
75. 週五日制やめてください。ホンマ、いやです。いそがしすぎる。
76. 行事ごとがカットされ、楽しみがなくなり、残念に思う。それと、去年に比べ、土曜日が休みになったということで、いろいろ忙しくなって大変です。（勉強も。）
77. 中学生で習うような内容が、高校へいった事。塾でそこを習っているが高校へ行かず、仕事につく人はどうなるのだろうと思う。週五日制は、自分の好きなことが出来てうれしいが、学力の低下が不安。
78. 好きな教科をもっとのばす時間が欲しい。（選択と総合の時間以外に）
79. 教科書の内容がわかりにくくなった。前の方がいい。体育祭や文化祭の、クラスで仲良くなれる時間が少なくなってイヤ。
80. これからの進路や勉強について。
81. 週五日制には、あんまり勉強できないからイヤです。
82. 週五日制になって、土曜日は3時間で終わってて、パンの販売があったのになくなったからいや。それに、部活でよけいにしんどい。
83. 週五日制になって、テストが増えて、気持ちが落ち着かなくてしんどいです。

84. 彼氏ほしい。
85. 特にないけど、学校とかほんまにイヤな時がある。先生に犯人扱いとかされた。本当にやってない。って否定すれば、「日ごろの行いが悪いから、疑われるんや。」と言われた。許せない。
86. 先生の教え方がヘタ。
87. 今まで平和だった自分の学校が、急に荒れ出して、自分には何をしてよいのかわからず、とても苦しいです。その人自身が改心してくれるのが、一番よいのですが、そんなことは絶対はないから、先生もみんなも困っています。ドタバタうるさいので、授業も集中できないし、休み時間も、ボーっとできないので、イヤです。気を使うのでしんどいです。前みたいな、平和で落ち着いた学校に早く戻って欲しいです。
88. 体のこととかで、家族の人にいろいろ言われる。
89. 勉強がおもしろくない。やる気がわからない。自分ではやろうと思っても集中できない。早く卒業したい。学校がおもしろくない。
90. 義務教育の言葉だけで、疲れる。嫌になる。学校に行きたくない。
91. 勉強する気がおこらない。
92. 先生によって授業のスピードが違うから、テストの時に困ることがある。
93. もっと先生に、生徒が思っていることをきちんと理解してほしい。生徒1人1人にもっと平等に接してほしい。
生徒のちょっとした変化をみのがさないでほしい。例えばしんどいとか、誰かに何か言われて悩んでいる。とか。
94. 先生がひいきしている。周りからして、気持ち悪い。
何でもかんでも決まりをつくられ、何をするにもルールで一杯。自由がない。
校則も厳しすぎていると思う。先生ならどんな髪の毛にしようか、髪の毛をおろしていようと好き勝手にして、生徒ばかり怒らないでほしい。
95. 先生、差別をしないでください。
生徒をなぐるな。
セクハラをするな。
96. さいきん勉強がわからなくなりました。(授業内容)。それに何かやる気がでません。
97. せっかく土曜日が休みになったのに、部活があるからいやです。
98. 私には夢があるのに、家族が応援してくれない。でも、あきらめられない。これで人生が変わるかもと思えば、あきらめることなんてできない。

〈保護者より〉

99. 週五日制になったため、いろいろな行事(たとえば体育祭、文化祭)の内容がうすっぺらいものになってきた。組体、女子ダンス、組ごとの応援等々けずられてしまって、子どもにとって、クラスがまとまるよいチャンスだと思うし、「おもしろくない体育祭だ」と言っている。

教育部会アンケート報告

篠山も市になって4年目。小さな町から、大きな市になって、教育現場ではどのような問題があるのか、どのような方向で解決していけばいいのか、第1期に続き、アンケートから考えてみました。すべての子どもたちの人権が守られ、のびのび育ち、自分らしく学ぶ・・・そういった環境を整備するために、私たち大人はどんなことをしなくてはならないのでしょうか。子どもたちの生の声に耳を傾けて欲しいと思います。

このアンケートは、女性委員会の教育部会が主になって、小学生、中学生を対象に行いました。この報告書はその結果から考えられることをまとめたものであり、今後の研究、最終報告に向けた調査資料とさせていただきます。

◎ アンケートからわかる現状および問題点

アンケート集計表、グラフ、自由筆記の欄を随時ご覧ください。

<全体を通して>

- ① 年齢が上がるとともに「楽しくない」と答えた子どもが多くなっている。
年齢が上がるとともに、「勉強がすき」、「先生がすき」と答えた子どもが少なくなっている。
- ② 朝食を食べる、食べないにかかわらず、午前中に気分が悪くなる子どもの割合が多い。
これは、睡眠時間との関係も考えられる。生活が夜型になり、寝る前に何かを食べることにより、朝食が食べられないということも考えられる。食べない理由も、「朝寝坊して時間がない」と答えた子どもが多く、夜遅くまで起きていて、朝起きられないという生活をしているのではないかと考えられる。
- ③ 「困っていることはない」と答えた子どもが多かったが、困っていることがあっても「相談したくない」と答えた子どもも多くあった。「まわりに相談する大人がいない子ども」、「今まで相談したが解決しなかった子ども」の割合も高くなっている。「相談したいことはあっても、実際には言えない」という子どももいる。
相談できる環境を整えて、子どもの言葉を受け入れる体制作りが必要である。
それとともに、悪いことをしたときに名乗り出やすい環境作りも大切だと思われる。
- ④ 年齢が上がるとともに「ひとりきりで過ごす時間がある」と答えた子どもが多くなっている。
「ひとりきりで過ごす時間はない」と答えた子どもの中には、兄弟や友達と過ごしていて、保護者と一緒にはいないと思われる子どももある。
- ⑤ どの年齢でも「家でゆっくりしている」と答えた子どもが多い。
- ⑥ どの年齢でも「ゆっくりできてうれしい」、「自分のしたいことができる」、「学校の疲れがとれた」

と答えた子どもが多い。

- ⑦ 「学力について心配なことがある」と答えた子どもは、小学校では低学年も高学年も同じぐらいだが、中学校では約2倍になっている。授業の内容が理解できなくても、先にすすまれる場合がある。年齢が上がるにつれて、親は子どもの勉強に対応できなくなる。手をあげて質問ができない子どもも多い。毎日の宿題が多いと、遊ぶ時間がなくなり、子ども自身に余裕がなくなってくる。

<小学校低学年に関して>

- ③ 小さい子どもは、困ったことがあっても、誰にどうやって相談したらいいのかわからない。適切な表現方法がわからない子どももあり、まわりの大人たちが気付くことが大切だと思われる。そのためには、まわりの大人は子どもの言葉だけではなく、振る舞いにも注意を払わなければならない。ただ、相談を受けた大人の対応の仕方に問題があるかもしれない。学校では、一人一人に目が届かない可能性もある。不用意に言った言葉で、子どもが傷つくこともあるから、会話は必要だが、言葉には注意しないといけない。
- ⑤ 外で友だちと遊ぶ子どもが多い。
- ⑦ 学力の心配をする子どもが多い。子ども本人の考えではなく、まわりの大人が言っているという可能性も考えられる。その言葉が、子どもにとってプレッシャーになっていることも考えられる。

<小学校高学年に関して>

- ③ 問題行動のある子どもがいるとき、子ども自身が相談する場所がないということもあるが、先生がひとりで抱え込んでいる場合もある。小学校高学年になると、深刻な問題行動もでてくるので、子どもの立場に立った対応がより必要になる。
- ⑥ 「ゆっくりできてうれしい」、「自分のしたいことができる」の割合が多く、週五日制を歓迎しているように思えるが、自由筆記のところでは、「平日が忙しくなった」との意見もある。

<中学校に関して>

- ③ 約8人にひとりが「困っていることがあるが、相談したくない」と答えている。こういう子どもたちにどう対応するのか、考える必要がある。小学校と違い、教科ごとに先生が代わるので、先生同士の連絡が密でないと、一人一人に対応しきれないと考えられる。
- ⑥ 「ゆっくりできてうれしい」、「自分のしたいことができる」の割合が多いが、自由筆記のところでは、「平日が忙しくなった」、「行事が味気ない」など、週五日制に対する批判が多い。
- 自由筆記では、週五日制への批判とともに、先生への批判が多い。五日制になって、保護者と先生との連絡も取りづらくなったと考えられる。また、子供達と先生のコミュニケーションが少なくなったと考えられる。

◎ 望ましい方向

- ① 年齢が上がるとともに「学校は楽しい」という子どもが少なくなっている。
「その他」の欄に書かれている言葉の中には、「学校が面倒くさい」など、どうしようもないこともあるが、「給食」「校則」「朝練」など、変更が可能なこともあり、再考の余地がある。
- ② 「朝ごはんを食べない理由」として、「時間がない」と答えた子どもが多く、子ども本人の問題として捉えなければならない。
「その他」の欄に書かれている言葉は、「食べたくない」が多く、生活習慣を見直さなくてはならないと考えられる。夜遅くおなかいっぱい食べると朝食べられないこと、生活習慣病との関係、肥満との関係など、子どもが納得のいく形で、生活習慣の見直しを発信し続けなければならない。
- ③ 「困っていることがあって、誰かに相談したい」と答えている子どもたちに、安心して相談できる相談場所を作る必要がある。また、「困っていることがあっても、相談したくない」子どもたちも、安心して相談できる相談場所があれば、相談しようと思うかもしれない。
中学生においては、「スクールカウンセラーに相談したい」子どもが少ないことから、スクールカウンセリングのシステムが充分機能していないと考えられるので、どうすれば充分機能するようになるのかを考える必要がある。
それとともに、学校外で、相談できる相談場所の確保も必要である。一例として、「子ども人権オンブズパーソン制度」の導入などを検討する余地があると思われる。
「自由筆記」より、学校現場では、先生の言動が子供達を傷つけている例も見られる。子どもたちにかかわる先生の意識の向上、また、先生たちにかかわっている管理職の意識の向上が必要である。
「まず第一に子どもの利益のために」という考えを原則に、子どもの立場に立った対応が必要となるが、「どうすればいいのかわからない」という先生のためにも、「子ども人権オンブズパーソン制度」が役に立つ。
- ④ 小学校低学年、高学年とも「ひとりきりで過ごす時間がある」子どもは少ないが、中には、半日以上ひとりで過ごしている子どももいる。「自由筆記」の欄でも、保護者からの切実な意見がある。学童保育、公民館の開放、イベントの開催など、安心できる居場所作りが必要である。責任者を置くこととともに、シルバー世代の人たちに助けてもらうようなシステムも考えられる。
- ⑤ 「家でゆっくりしている」と答えた子どもが多く、「その他」の欄にもバラエティーに富んだ回答が多いことから、自分の時間を自分の意思で使っている子どもたちの姿が浮かんでくる。周りの大人は、そういった子どもの意思を認め、尊重し、時間の使い方を強制しないようにする必要がある。

- ⑥ 全学年を通じて、5分の1～6分の1の子供達が「学校の疲れがとれた」と答えている。「学校は疲れるところ」という現実がある。少しでも疲れのない工夫が、学校側に求められる。
- ⑦ 特に、中学生に「学力について心配なことがある」と答えた子どもが多い。「その他」の欄にも、勉強の心配がぎっしり書いてあるが、学校および先生の配慮があれば少しは解決できるのにも思えるところもある。先生は自分自身の教え方をもう一度見直す必要がある。
- また、勉強は、時間でなく内容で判断すべきで、上の空で長時間やっても成果はあまりない。学校もだが、家庭でもそういう意識をもち、子どもにとって勉強しやすい環境を整えることが必要である。

○自由筆記

小学校低学年は、友だちと遊ぶのが楽しくて、土曜日でも学校へ行きたい。小学校高学年や中学校は、平日が忙しくなったので、土曜日でも学校へ行きたい。と、少しずつはあるが、全学年を通して、土曜日が休みになったことへの批判があった。

小学校の子どもたちの自由筆記の中にはなかったが、中学校の子どもたちの自由筆記の中には、先生への批判が多くあった。他人事ではなく、自分のこととして今までの言動を振り返り、よりよくできるところは改善していく必要がある。



《アンケートの集計、まとめを終えて》

私たちの予想を越えた、切実な回答が多く、実際に生活をしている子供達と、私たち大人の意識のずれを非常に感じました。「平日が忙しすぎる」という声に、私たちができることはなんでしょう。心配事を相談したくても、「本気で聞いてくれない」、「言っても無駄」と答えた子どもたちの背景にあることを、私たちは真剣に考えなくてはなりません。

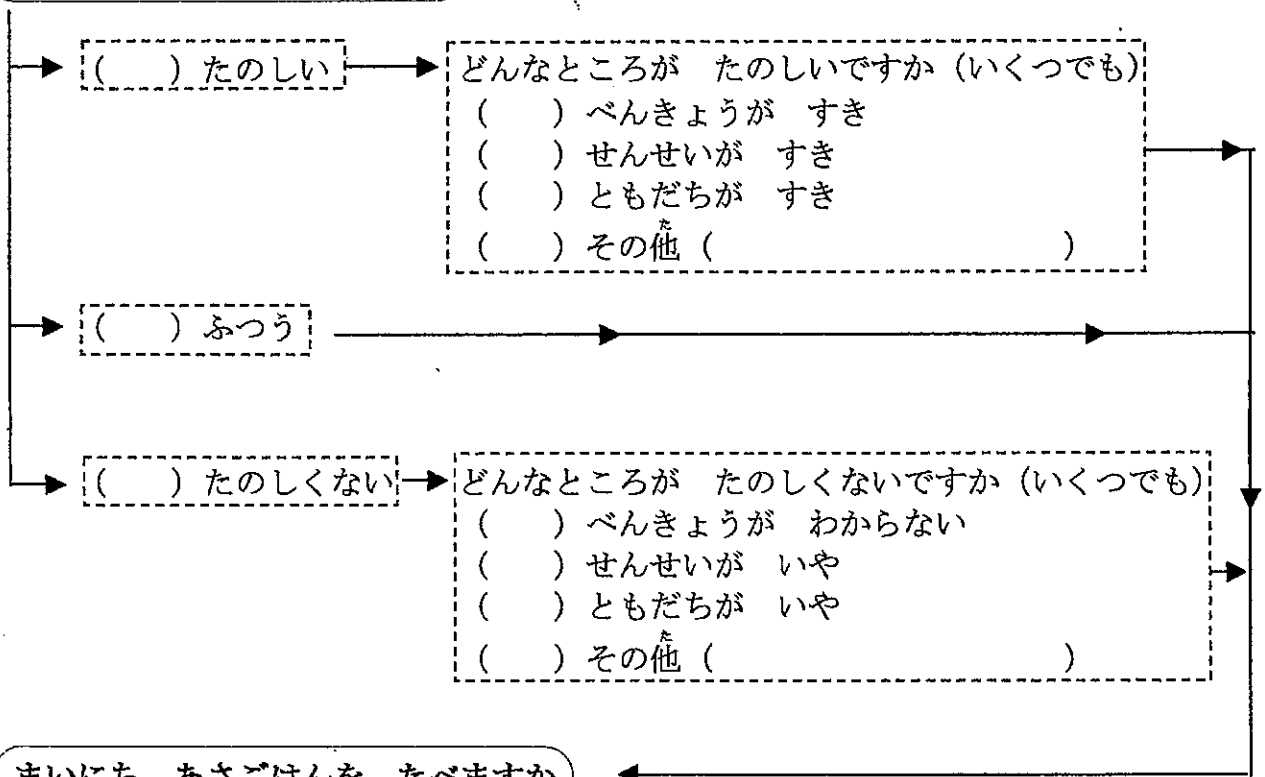
一人ひとりの力は本当に小さいものですが、同じ思いを持った人たちが集まることで、大きな力になっていきます。これからの時代を生きる子供達が、少しでも生きやすくなるように、私たちの小さな力を大きな力に変えていく方法を模索する時期だと思えます。

アンケートのおねがい

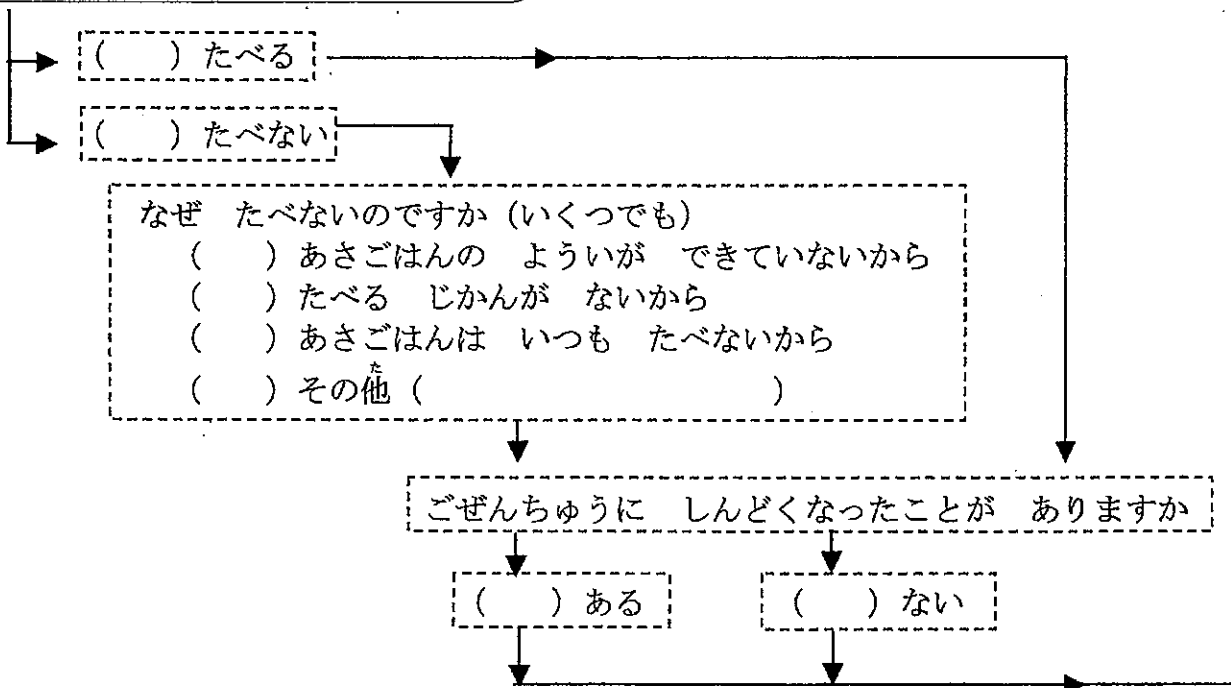
がっこうや いえでの せいかつについて きかせてください。

やじるしを たどって あてはまるところの () に マルをつけてください。

① がっこうは たのしいですか



② まいにち あさごはんを たべますか



→③ このごろ なにか こまっていることが ありますか

ある

ない

だれかに そうだん したいですか

したい

だれに そうだん したいですか (いくつでも)

おとうさん・おかあさん

せんせい

ともだち

おにいさん・おねえさん

でんわそだん

その他 ()

したくない

なぜ したくないのですか (いくつでも)

じぶんで なんとか できるから

じぶんのまわりに、そだんしたいひとが
いないから

そだんしたけど、どうにも
ならなかったから

その他 ()

④ どうゆびに ひとりだけの じかんがありますか

ある

ない

だれと いっしょですか (いくつでも)

おじいちゃん・おばあちゃん

おとうさん・おかあさん

きょうだい

ともだち

その他 ()

どのくらいの じかんですか

ちょっとのあいだ [2じかんより すくない]

あさから おひるまで [2じかんから はんにち]

おひるから ゆうがたまで [2じかんから はんにち]

いちにちじゅう [はんにちより たくさん]

つぎのかみの ⑤へ 行ってください

- ・遠くに行けないような人に一番来ていただきたいが、出てこられない。家にひきこもっている方が、喜んで来てくださるように色々考える。
- ・今後の活動費の問題。
- ・回を重ねる度に次回の活動内容について。みんなが楽しんでいただける内容について。

***今後の課題**

- ・もっと出てきて欲しい方々があると思うが通じず、民生委員等と協力し、声かけができるとスムーズに交流が持てるのではないかと考えるが、なかなか活動者の気持ちが理解してもらえていないところがある。
- ・活動が継続すること。
- ・資金面。
- ・交通の便。
- ・ボランティアをする人の人材確保・育成。
- ・人材登録をして、ボランティア人材の不足の場合、応援してもらえるような仕組みを作って欲しい。(SOSの時のみ)
登録しあって交替があると心強い。自治会とか、地域とか枠を超えて生き生き活動ができるとうれしい。(ネットワークづくり)
- ・研修にメインをおき、レベルアップを図りたい。
- ・活動費の確保をどうするかである。現在、参加者より1人当たり300円を徴収しているが、内容によっては不足を生じる。ボランティアの持ち込みは多く、不足分の補いをしているものの活動内容によっては、無理なところがあり、今後の課題である。
- ・当初より7人の役員で活動しているが、今後は役員だけでなく、協力してくださる方々への協力依頼。
- ・2年間は助成金を受けているが、多少カットされる声も聞いているが、できるだけ同額で続けて欲しい。

- ・金銭的に困難である。
- ・地域の方々の好意によって運営して2年目を迎えているが、コツもつかめるようになった。若年層への浸透や参加・関心を同結びつけるかが課題である。
- ・市よりの助成金。参加費1人300円。2ヵ月に1回。
- ・お昼の食事、季節の行事、講演会。
- ・市よりの助成金。参加費1人300円。
- ・民生委員、福祉委員を中心にして、次の活動計画を立てている。その月にちなんだ行事、遊びや歌、ビデオも利用。
- ・事前に計画を立てる。役割を決める。会計、記録、写真、その他の分担。

***問題となっていること**

- ・活動者12名で施設支援も実施しているので色々と忙しい、手作りの品は、家に持ち帰り仕上げる事が多く、メンバーが増えるといい。
- ・活動者が段々と歳をとってきている。
- ・男性の利用が少ない。
- ・交通の便、バスを出していただければもっと多くの人々が利用できる。
- ・金銭面で不足が生じている。活動者の検便代（食事を作っているため）
- ・交通の便は、男性2人がボランティアでしてくれている。
- ・食事の用意はしていない。福祉センターの食事をとっている。
- ・長続きするように午前中・午後と二分して工夫している。
- ・専門職の人の確保（血圧測定、医療関係に携わった人）
- ・現在はなんとか続いているが、後継者の問題。
- ・「継続は力なり」というが、続けることの難しさを切実に感じる。